



企画にあたって

小寺 聡

(東京大学医学部附属病院循環器内科 特任講師)

AI (人工知能) の進化は留まるところを知りません。特に近年, AIは飛躍的に賢くなり, AGI (汎用人工知能) から ASI (超知能) へと移行しつつあります。このような急激な進展に対し, 「ディープラーニングの父」として知られるノーベル賞受賞者のジェフリー・ヒントン博士も, その危険性について警鐘を鳴らしています。医療分野における AI の活用は, ほかの産業に比べて遅れることが予想されます。規制や倫理的な問題, データの取り扱いなど, さまざまな課題が存在するためです。しかし, それでも私たち医師は AI とうまく付き合っていく必要があります。患者さん自身が AI を用いて医療情報を取得し, 自らの健康管理に役立てることは確実であり, 私たち医療従事者もその流れに対応しなければなりません。

今回の特集では, 医療 AI の現状と近未来について幅広く紹介しました。AI の基本的な知識から始まり, プログラミングの始め方についても解説しています。また, 心電図, X線写真, 心エコー, CT などのさまざまな診断 AI や, 高血圧や心臓リハビリテーションなどの治療 AI についても詳細に取り上げています。これらの技術が臨床現場にどのように応用されているのか, 具体的な事例を交えて紹介しています。さらに, AI と医療倫理など, 医療 AI を取り巻く複雑な問題についても考察しています。紙カルテから電子カルテへと移行したように, 私たちは「AI が存在しなかった時代」から, 「AI とともに歩む時代」へと大きな転換点に立っています。この変化の波に乗り遅れないためにも, AI についての理解を深め, 積極的に活用していく姿勢が求められています。

AI は私たちの医療現場に新たな可能性と課題をもたらしています。正しく理解し, 適切に活用することで, 患者さんへの医療サービスの質を向上させることができるでしょう。

今回, お忙しいなか執筆いただいた第一線でご活躍の先生方に御礼を申し上げるとともに, 本特集が, 読者の先生方にとって AI との向き合い方を考える一助となり, 日々の診療に役立てていただければ幸いです。